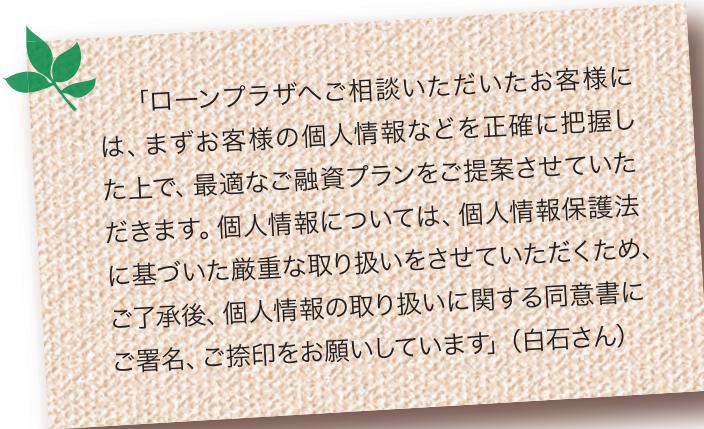


# リフォームにおいての 住宅ローン活用術

「リフォームに利用できる融資は金融機関のリフォームローン?」「住宅ローンを返済中だから、リフォームは返済が終わってからかな?」など、リフォームに関する住宅ローンの活用術を白石さんに教えてもらいました。



## ・例1・

### 熊本市在住 Aさんの場合

- 家族構成…50歳代ご夫婦
- 20年前にマンションを購入 住宅ローン残高1000万円
- キッチンの修繕をきっかけに ご自宅の全面改装を検討

	住宅ローン残高を現状のままお支払いを続けた場合	借り換え+リフォームを行った場合
金利	4.00% (全期間固定金利型)	1.0% (固定金利期間選択型)
借入残高	1,000万円	1,500万円
支払残年数	10年	20年
月々支払額	101,200円	68,984円

Aさんはさらに、数年後の退職時に退職金の一部で繰り上げ返済することも考えます。そこで、ローンプラザから「現在の住宅ローン残高の借り換え+リフォームに係わる資金」を新たな融資で組み直すことを提案。現在借り入れしている金融機関とは別の機関で住宅ローンの新規借り入れという形にでき、残高は増えたものの、現在の低金利のメリットもあり、月々の返済額を減らしてリフォームを実現させました! (金額に諸費用分は含まず。お支払いは元利均等返済方式)

### 退職金の一部で 繰り上げ返済することも

### 新たな融資で組み直すことをご提案

お家は「最大の財産」で  
「最大の資産」です

住まいは、日頃の疲れを癒やしてくれ、家族が集まる楽しい団らんや、家族の成長を見届けてくれる、とても大切な場所です。同時に、皆さんが持つ最大の財産、リフォームを考える原点は、財産としての価値を見直し、付加価値をつけて将来の生活や家族へつなぐことです。大切な資産として、その価値を高めるためのリノベーションすることで、資産を上手に運用しませんか?

「リフォーム会社にも  
お金の相談窓口が必要!」という発想

「これまでにさまざまなお客様のお話を伺ってまいりましたが、リフォームのご相談で必ず直面する問題は、資産に関することです」と話すのは、『リ・ホーム熊本』ローンプラザの白石妃紗美さん。リフォームは現金で考える方がほとんどで、現金の準備ができないとリフォームできないと思う方が多いとか(戸建て層の82%、マンション層の86%が、リフォーム資金の調達方法に自己資金をあげている。平成23年3月調査・一般社団法人住宅リフォーム推進協議会)。

このご時世、いつ何時急にお金の必要な状況がやってくるかわかりません。また、すぐにはお金の準備ができるないから、貯金してからリフォームをしようと考へても、希望額に達するまでの間に、数年が経過してしまうことも。「そんな中、私たちリフォーム会社にもお金の相談窓口が必要なのではないかと気付きました」と白石さん。最近、加入保険の見直しを行う保険の窓口が増え、特定の会社にこだわらず、第三者の専門的な目線でアドバイスをしてくれる会社が注目を集めています。

「それと同様、リフォームについてお考えになる前に、まずはお金や生活の現状を把握し、大事な資産を今後どう活用されるのかを私たちが伺い、そこから生活全体の見直し・ご資産の活用について一緒に考えていくことが必要なのではと考えています」と話します。

金融機関へ行けば、難しい金融商品を勧められるのではないかだろうか。そもそもどこの金融機関へ相談したらいいかわからない。そんなお客様の声に応えるべく立ち上げたのが、リフォーム会社では珍しい取り組みとなる『リ・ホーム熊本』のローンプラザなのです。

無理せず返せるマネープランに

住宅ローンが  
利用できるのを  
ご存じですか?

定期的なメンテナンスが必要とされる屋根や外壁はじめ、トラブルが発生しがちな水回りなど、経年した住まいにはさまざまな問題が蓄積してきます。そんな時、真っ先に頭に浮かぶのが費用の問題です。『リ・ホーム熊本』には、住まいと資金に関する悩みに応えるため、専用の相談窓口「ローンプラザ」が設置されています。



熊本地震による被災住宅の  
応急修理は、1世帯あたり  
最大57万円6千円が支給されます。

申し込み期限…平成29年4月13日

被災した住宅の応急修理については、自ら修理する資力のない世帯を対象に、屋根やドア、トイレなど日常生活に不可欠な部分に限り、1世帯当たり最大57万6千円が支給されます。詳しくはお住まいの市町村の窓口にお問い合わせください。



ナビゲーター

株式会社リ・ホーム熊本 ローンプラザ相談窓口  
白石 妃紗美さん

